

ねくわい



稲荷学区社会福祉協議会
会長 林 和 宏

発行

新年おめでとうございます。今年度より、北野信義様の後任として、稲荷保健協議会の会長を務めさせていただいております。さて、昨年11月29日に実施いたしました稲荷大社周辺一斉清掃には、総勢106名もの皆様にご参加いただき、盛大に清掃員の皆様に参加者募ってくださいました。PTAから親子で参加してくださいましたこと、そ



稲荷保健協議会
会長 宇野 喜貴

これからも稲荷が美しい街で あり続けるために

して各種団体の皆様のご協力があつてのことと、心より感謝申し上げます。小学生から高齢者の方々まで、幅広い世代が一つの美化啓発運動に取り組めたことは、大きな成果であつたと感じております。ところで、話は変わりますが、最近「昔は良かった」という言葉を耳にする機会が増えました。外国人観光客の増加により落ち着かないという意味合いもあるでしょうが、多くは現在と過去を比較して語られる言葉で参加して下さったこと、そ

令和八年の新春を迎え、謹んでご祝詞を申し上げます。平素より当社の諸行事に際しましては、格別のご理解とご協力を賜っておりますこと、洵に有り難く、心より厚く御礼申し上げます。本年は、干支において午の年にあたり、陽の気が満ちて、物事が勢いよく進む年といわれております。古来、午は「飛躍」の象徴とされ、馬は神々の使いとして人々の信仰を集めてまいりました。その姿は、俊敏さと力強さ、そして揺るぎなき忠誠



藤森神社
宮司 藤森 長正

午(うま) 年を迎えて ― 勝運と飛躍への願い ―

に執り行われる駄馬神事など、馬との深い関わりに由来するものであります。午年の本年、藤森の大神様の御導きのもと、皆様お一人おひとりが己の道を力強く駆け抜け、心豊かに歩みを進められますように、切に願っております。「飛躍の年」とは、ただ高く跳ぶことにとどまらず、内なる志をもつて新たな境地へと踏み出すことを意味しております。社会の変化が加速する今こそ、伝統と革新を調和させ、人と人との絆を大切にしながら、それぞれの使命を果たしてまいりたいものであります。藤森の大神様が授ける「勝運」は、競克ち、道を拓く力でもあります。午年にふさわしく、勇気と誠実

さをもつて日々の営みに真摯に向き合い、飛躍の一步を踏み出してまいります。そしてその歩みが、やがて地域の安寧と繁栄へとつながり、皆様の暮らしに豊かな実りをもたらすものと、心より信じております。新しい年の始まりにあたり、皆様にとりまして本年が希望と喜びに満ちた佳き一年となり、あわせてご健勝とご多幸、そして藤森の大神様の御加護が常にあらんことを、衷心より祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



ではないでしょうか。私自身も、いつの間にか家族や若い世代に「僕の子どもの頃はこうやったんやで」と、昔話を語る年齢になりました。稲荷は、普段のお稲荷さんは、ひとつそりとしており、子どもたちにとっては格好の遊び場でした。低学年の頃は駐車場で自転車の練習をし、中高学年には火焚祭々場や田植祭水田前などでよく遊んだものです。稲荷大社近くの本町通りに関しては、多くの商店に加えイナ

時代は移り変わりますが、稲荷の街の姿や暮らしにはそれ程変化はなく、人と人とのつながりや、地域を大切に思う気持ちなどは、今も昔も変わらぬものだと感じています。これからも地域の皆さまと協力し合い、我々の住む稲荷の街が、美しい街であり続けるためにも、街美化啓発運動を続けていく所存です。



新年明けましておめでとござい
ます。皆様には、穏やかな新春を迎
えられたこと存じます。

さて、「午」の話はこれくらい
して、本論に入りましょう。
今年、願望をも込めて、元気で
明るく、景気の良い年に願って
います。稲荷学区は、伏見区の中
でも、元氣なお年寄りや関連な子
たち、地域の各種団体の活発な活動
などに支えられた、連帯感のある土
地柄です。稲荷学区社協の事業・活
動においても、常にお他団体や地域
の方々の協力をいただいております。
変にありがたいことです。

稲荷学区社会福祉協議会の事業・
活動の目的は、言ってもなく稲荷
学区在住の皆様への福祉の向上・充
実であり、その目的達成のために、
努力していく所存です。社協に限ら
ず、地域のボランティア活動とい
うのは、義務感、使命感といった堅苦
しいものではなく、楽しいものでな
ければならないと思っております。行
事に参加していただく方はもちろん
人、準備や運営に関わっていただ
く社協の役員や協力いただく方々
も、楽しんで携わっていただけるよ
うに努めてまいります。

他人からは 悩みなきよ
に 笑顔を 周りの人々を幸せな気持ち
にしてくれますから・・・

今年一年、笑顔で過ごしましょう。
笑顔は、周りの人々を幸せな気持ち
にしてくれますから・・・



令和七年度
【敬老のつどい】開催報告
令和七年十一月九日(日)

稲荷小学校体育館にて、皆様のご
協力をいただき開催されました。当
日はあいにくの雨となりましたが、
大勢の方にご参加いただき、役員一
同、大変喜んでおります。
一階・多目的室で抹茶の接待を
二階・体育館では、一部 式典 二
部 アトラクションが行われました。
稲寿会絵画部・俳句部委員の皆様
の作品も展示いただきました。
アトラクションは、稲荷こども園・
園児、稲荷小学校・児童の歌と踊り
に続いて、稲寿会・コーラス部の歌、
藤森すこやか学級のコンサンプ
ロの方のヴァイオリン演奏と最後に
全員合唱
で、楽し
いひと時
を過ごさ
れて、閉
会となり
ました。



抹茶の接待



敬老のつどい 式典



稲荷小学校・児童



稲寿会・コーラス部



藤森すこやか学級メンバー



ヴァイオリン演奏

新年を迎えました、まだ歳を取った
と言わないうで、皆さん今年一年を元氣
に過ごしましょう。
昨年の秋ですが、スマホ、ある和
尚の法話を聴きました。
禅語『体露金風(だるきんぷう)』
秋の冷たい風に吹かれて木々が葉を
落とし、ありのままの姿を現す。
飾らない、儼らない、本来の自分の
姿は、どのようなものでしょうかとの
問い。
秋は自分の心と向き合う時期として
いただければと思います。との話でし
た。
昨年の自分を思い返すと、一度も自
分と向き合う余裕もなく、毎日の生活
に追われていました。今年自分を見
つめ直す機会を持ち、心は丸く穏やか
な人になるよう頑張ります。

編集委員 岡谷 英夫